SHUKUTOKU
School Report
学校法人 大乘淑徳学園
校報 淑徳与野中学・高等学校
SHUKUTOKU YONO JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL
第140号
■ 発行： 〒338-0001 埼玉県さいたま市中央区上落合5-19-18 TEL.048-840-1035
URL http://www.shukutoku.yono.saitama.jp/
■ 編集： 井ノ口 裕
発行年月日：2023.6.23

高校卒業式

令和五年三月三日(金)、高校卒業式が挙行されました。今年は三年ぶりに保護者の皆様ご列席のもと、コロナ前の通常の形式で行うことができました。最後に全員で校歌を歌う姿は、誠に感慨深いものでした。厳粛な儀式の中、卒業生たちは終始立派な姿勢でした。

卒業式後の「最後のホームルーム」は保護者の方々にも見学いただけました。

卒業生から担任の先生へ、各クラスでどんな演出やサプライズがあったのでしょうか。できれば各クラスのリモート中継を拝見したかったものですが、ここはリモート厳禁、クラスの中だけの思い出として大切な記憶となったことでしょう。

午後の「卒業を祝う会」は軽音楽部・吹奏楽部・ダンス部・バトン部の皆さんの発表と卒業DVDの上映で最高の盛り上がりを見せました。生徒のみならず教員の名演技の光るDVD。撮影時には、果たして教員がここまでサービスすべきなのかと疑問を感じながらも、全力で演技してしまったことを思い出します。

三月三日は祝う会が終わってもなお、帰りたがらない卒業生で溢れていました。高校生活で育んだ絆が感じられる、とても素晴らしい一日となりました。三五七名の皆さん、卒業おめでとう!!

contents

- 春秋に想う …… 2
- クラブ活動報告 …… 2
- 主要大学合格状況（過去３年） … 4
- 入学式 …… 4
- 全国学生書道展覧会 文部科学大臣賞受賞 …… 4
- なでしこ会の総会を行いました。 … 4
- 高１ 山の教室 …… 5
- 高３ 鎌倉研修 …… 5
- 高1 インターナショナルプログラム報告 6
- カンボジア視察 …… 6
- 高１ イギリス研修旅行 …… 7
- 中３ イギリス研修旅行 …… 7
- 人事 …… 7
- 淑与中だより …… 8

淑与中だより

中一 新入生オリエンテーション

十九期生一二六名、四月二十六日(水)～二十八日(金)の二泊三日でオリエンテーション合宿に行きました。今年はコロナ感染の行動制限が緩和され、すべてのプログラムが実施できました。

初日は大雨。雨に濡れながらも富士浅間神社に参拝し日々の感謝や、お願い事をしました。ホテル到着後は、校長先生から「淑徳の歴史と精神」を学び、淑徳の精神を意識しながら友人関係も徐々に広がりました。

二日目以降は雲一つない快晴。雄大な富士山に見守られ、洞窟探検・樹海散策から始まり、恵林寺参拝、いちご狩りまですべてのプログラムを体験できました。歴史や自然科学の話に真剣に耳を傾け、積極的に学ぼうという姿勢に生徒たちの知的好奇心の旺盛さを感じました。また、ドリームワークショップではお互いの夢を共有し夢の第一歩を踏み出しました。

改めてこの合宿は、心を磨く、視野を広げる、頭を鍛える、を実現するためにはなくてはならないプログラムであることを実感しました。心も体も一回り成長し、たくましくなった生徒たちの、今後の活躍が楽しみです。

中二 沖縄研修旅行

十一月二十日(日)～二十三日(水)の三泊四日で沖縄研修を実施しました。羽田空港から飛行機に乗ること三時間、到着した那覇空港では明るい太陽が出迎えてくれました。

初日は沖縄戦終焉の地である平和祈念公園とひめゆりの塔を訪れました。生徒は自分たちと同年代の学徒の悲惨な証言に目を奪われ、展示資料を真剣に読み込んでいました。戦争の残酷さと平和の尊さが一人ひとりの心に刻まれたことと思います。

二日目と三日目は、カヤック体験・モノづくり体験・美ら海水族館・やんばるの森等々、沖縄の豊かな自然や文化に全身で触れる経験となりました。三日目に立ち寄った古宇利島は透明度の高い美しい海に囲まれた小さな島で、生徒たちが靴を脱いで次々に海の中に入って大喜びする姿が印象的でした。

青学年の仲間たちと過ごした沖縄研修が、中学生活の宝として生涯記憶に残ることを願います。

中三 京都奈良修学旅行

十一月十六日(水)～十八日(金)、京都・奈良への修学旅行に出かけました。コロナ禍による休校とともに入学した三年生には、ようやく実施された本格的な宿泊行事で、生徒の皆さんの期待も並々ではなかったようです。

奈良では興福寺・東大寺・春日大社の見学、「語り部の会」の先生の講演、明日香の散策、法隆寺の見学。京都では舞妓さんとの交流体験、銀閣寺の見学、知恩院で輪島聞声先生の墓参、清水寺の参拝、清水坂でお土産を探しながら自由散策。最後に三十三間堂を見学して帰途につきました。

三日間天候にも恵まれ、紅葉の美しい京都・奈良を満喫することができました。生徒たちは、現地語り部の会のガイドさんやバスガイドさんの説明をたいへん熱心に聞いていて、ガイドさんからガイドのし甲斐がある、ガイド冥利に尽きるとのお褒めの言葉をいただきました。

春秋に想う

―仙崎の思い出―

校長　**里見裕輔**

（一）

二十三年前の八月のことです。真夏の日射しのなかを、私は山陽新幹線の厚狭という駅に降り立ちました。

瀬戸内海に程近い厚狭の駅。

ここを起点にさらに同じ山口県でも反対側の、日本海に面した長門市を目指して、私は、険しい中国山地を跨いで走るJR美祢線に乗りついだのですが、このローカルな単線は、起点と終点を除いて区間のほとんどが無人駅でした。

この間、私はまさに至福の時を過ごすことができました。

車輛も一輛で業務のすべてを運転士がひとり担いながら、深山幽谷をゴトゴトと縫うようにして進む美祢線は、およそ暢気なその速度が、私に、車窓の景色に寛ぐやすらぎをあたえてくれたのです。

新幹線は速すぎます。

夏の陽光をいっぱいに浴びた一面の緑の世界に、葉が、まるで魚の鱗のようにキラキラと輝いていたり、ここでは景色が止まってみえるのでした。

それでも山地を跨ぐと、眼下の日本海に向かってくだる車輛の速度もさすがにあがり、やがて十六時十分、私は終点の長門市駅にたどり着きました。

ここは金子みすゞの故郷である仙崎に到る、入口の町。私はまず長門市に宿泊し、翌日の仙崎訪問に備えたのです。

（二）

童謡詩人・金子みすゞは本名をテルといい、その二十六年の短かい生涯の大半を、故郷の仙崎で過ごしています。

私はかねて彼女の作品の舞台となった仙崎という、彼女を産み、その人間性を育み、あまた珠玉の名詩を世に送り出させたこの地の風土に興味がありました。

ここは漁業の町です。

まるで、角のように海に突き出た狭い三角地に、多くの人家が密集するこの町は、その角の先端に横たわる緑深い青海島によって、長く、日本海の荒波の直撃から守られてきたのでしょう。

しかも両者はほとんど陸つづき。こうして地形が湾を形づくり、その穏やかな内海に沢山の幸をもたらしました。

昔は鯨が捕れたほどです。

江戸時代から明治初期にかけて、仙崎では、しばしば湾に迷いこんだ鯨を狩る勇壮な鯨漁がくり広げられたといいますが、テルが生まれた明治三十六年頃にはそれも、すでに廃れていたようです。

それでも捕鯨の歴史は現在もこの地に語りつがれています。

さて、三角形の町の底に仙崎駅がありますが、今そこは駅というよりも駅舎を用いた『みすゞ館』と化し、当地を訪れた者はまずこの記念館を見て、いよいよ金子みすゞの世界に入るのです。

（三）

町の中央『みすゞ通り』と名づけられた街路を歩くと、そこはいかにも漁港の香りであふれていました。そして、まるでひとつの共同体のように町の佇まいがおちついているのも、温暖な気候と豊富な海の恩恵がもたらした、余裕によるものなのでしょう。

そのなかで人々は屈託のない毎日を過ごしているかのように見えるのです。

やがて駅から十分もかからずに、テルの生家の『金子文英堂』を当時のままに復元した、小さな書店に着きますが、まさにそこそこ彼女が幼・少女期を、また大津高等女学校に通う多感な青春時代を送った、その家にほかなりません。

後年、雑誌『婦人倶楽部』などに作品が掲載されて、それが西条八十らに絶賛された、金子みすゞの童謡詩人としての準備期間がそこにありました。

近所の極楽寺は彼女の遊び場所。

さらに進んで、昭和五年の死去から今も彼女が眠る遍照院に向かうと、そこはもう角の突端に近く、目の前に青海島がその巨体を横たえています。

それにしても仙崎はなんとも寺の多い町で、そのことが代々ここに住む人々の厚い信仰心を支えてきたとすれば、この地の風土と仏教とは、深いところで結びついているのかもしれません。

（四）

朝焼け小焼けだ（原文）朝焼小焼だ
大漁だ　大漁だ
大羽いわしの　大羽鰮の
大漁だ　大漁だ
浜は祭りの　濱は祭りの
ようだけど　やうだけど
海のなかでは　海のなかでは
何万の　何萬の
いわしの弔い　鰮のとむらひ
するだろう　するだらう

仙崎では昔、捕った鯨に戒名をつけて位牌に祀るなど、命あるものの命を敬うその一方で、生きるためにはそれを喰うという矛盾に、人々は、人間の悲しい業を感じていたのかもしれません。

右の金子みすゞの詩『大漁』はその思いを今によく伝えているようです。

大漁の喜びを肯定しつつ、視点を変えて海のなかを見てみるならば、そこに命を奪われる側の悲哀があると語るこの詩の背景に、彼女の優しさと、その豊かな感受性を育てた風土というものがうかがい知れるのでした。

さて、生きとし生けるものに等しく慈しみの心を注げと説く仏教。金子みすゞにも通じるこうした価値観は、人間だけが特別な存在だと考える人間中心の価値観に溢れる現代の風潮にあって、はたして受け入れられるのでしょうか。

クラブ活動報告

中高バトン部「全国大会」

中高バトン部は共に全国大会出場を決め、中学は三月二十八日(火)に、高校は二十九日(水)行われたUSA School&College Nationals 2023に出場しました。結果、中学はSong/Pom部門 Small BでAチームが六位、Bチームが八位、高校はSong/Pom部門medium Bで六位入賞をそれぞれ果たしました。

中学テニス部ダブルス「県大会」出場

五月九日(火)に行われた、さいたま市学校総合体育大会テニスの部の個人戦にて、中榮紗希(中学二年一組)、和田千怜(中学二年一組)ペアが三位に入賞し、県大会出場を決めました。

剣道部「関東大会」出場

高校剣道部は、五月七日(日)に行われた関東大会の予選団体戦で五位に入賞し、関東大会への出場を決めました。関東大会は、六月二日(金)～四日(日)にかけて行われました。

吹奏楽部「定期演奏会」開催

三月三十一日(金)、中高吹奏楽部の定期演奏会を開催しました。四年ぶりに一般の方にもご来場いただく形での演奏会開催が実現し、昨年度からのライブ配信と併せて、より多くの方に演奏をお届けすることが出来ました。また、今回は事前のアンケートや会場での投票によりご来場者様に演奏曲を選んでいただく企画をおこない、奏者と客席が一体となったステージを作り出すことができました。

卓球部「県大会」出場

高校卓球部は、四月十八(火)・十九(水)・二十六日(水)に行われた地区大会に出場し、シングルスで三年十組の小曽川侑里さんがベスト24、ダブルスで三年八組の粳田真優さん・斧田莉奈さんペアがベスト16、団体でベスト12に進出し、いずれも県大会出場を決めました。

ダンス部「大会出場」入賞

ダンス部は、三月十一日(土)に東京体育館で行われたDance Drill Spring Festival 2023 EAST 東日本中学校・高等学校ダンスドリル競技大会二〇二三に出場しました。結果はHIP HOP女子部門Medium編成で第三位を獲得しました。

主要大学合格状況（過去３年）

2023年５月８日現在。（　）内は過年度生。

国・公立大学

学校名	2023年	2022年	2021年
北海道大学		1	
東北大学	1		3
大阪大学	1		1
名古屋大学		1	
九州大学	1(1)		
筑波大学	3	3 (1)	3
お茶の水女子大学	2	2	1
一橋大学			2
東京医科歯科大学	1	1	
東京外国語大学	1	3	3
東京農工大学	4	3 (1)	2
東京海洋大学	3	3	2
東京学芸大学	2	1	1
東京藝術大学	1		
電気通信大学			1
宇都宮大学		2	1
群馬大学	1	4 (1)	1
千葉大学	5	3	5
埼玉大学	5	8	7
横浜国立大学		1	2
高崎経済大学		1	3
横浜市立大学	1	2	1
東京都立大学	6	1	1
埼玉県立大学	5	1	1
防衛医科大学校	4	1	
防衛大学校	2		2
国立看護大学校		1	
その他	5	5	10 (1)
合計	54 (1)	48 (3)	53 (1)

※旧帝大・関東圏内の大学のみの表示となっています。

私立大学

学校名	2023年	2022年	2021年
早稲田大学	47	65	55
慶應義塾大学	5	21(1)	16
上智大学	60	46	81
東京理科大学	42	31(1)	34
合計	154	163(2)	186
明治大学	80(4)	103(2)	73
立教大学	138(5)	147(3)	126
青山学院大学	31	27	22
学習院大学	29	55	29
中央大学	35(2)	38(1)	56(2)
法政大学	58(4)	54(2)	42(1)
合計	37(15)	424(8)	348(3)
津田塾大学	25(2)	18	21(1)
東京女子大学	49(2)	64(1)	95(1)
日本女子大学	123(1)	157(1)	117(1)
合計	197(5)	239(2)	233(3)
獨協大学	18(1)	27(1)	15
成蹊大学	8(1)	18	12(1)
成城大学	20(5)	21	16
東洋大学	31(2)	63(1)	46
日本大学	38	39(7)	24(2)
合計	115(9)	168(9)	113(3)

医・薬・歯・獣医学部合格状況

学部名	2023年	2022年	2021年
医学部	16(1)	28(9)	18(9)
北里大学、獨協医科大学、埼玉医科大学、東京女子医科大学、東京医科大学、聖マリアンナ医科大学、昭和大学、東邦大学、日本大学、国際医療福祉大学、藤田医科大学			
薬学部	43	54(1)	49(5)
名古屋市立大学、岐阜薬科大学、慶應義塾大学、東京理科大学、北里大学、明治薬科大学、東京薬科大学、星薬科大学			
歯学部	3	4(4)	2(1)
徳島大学、明海大学、日本歯科大学			
獣医学部		5	

過去３年間の進学率

学校名	2023年	2022年	2021年
卒業生総数	357	405	346
4年制大学	96.6%	96.5%	96.8%
短期大学等	0.0%	0.5%	0.3%
合計	96.6%	97.0%	97.1%

入学式

四月八日(土)、午前に高等学校、午後に中学校の入学式が挙行されました。高校は三三三名、中学校は一二六名の新入生を迎え、コロナ対策を十分に行った上での式となりました。今年も保護者を会場にお迎えして式を行うことができ、温かく華やかな雰囲気の中、新入生をお迎えできました。その中で新入生代表の「誓いの言葉」、在校生代表の「歓迎の言葉」を聞き、まだ落ち着ききらないコロナ禍でも、負けずに積極的に学んでいこうという意欲を感じました。

全国学生書道展覧会　文部科学大臣賞受賞

日本書道院 第七十二回全国学生書道展覧会において、高校三年一組の小貫遥香さんが文部科学大臣賞を受賞しました。「一渓鷗散桃花雨、兩岸鶯啼楊柳風」と書かれており、訳文から想起される風景と漢字から受けるイメージをもとに、自分らしい作品を追い求め、繰り返しの練習の成果を発揮し、受賞へと結びつけました。

なでしこ会の総会を行いました。

本校の同窓会であるなでしこ会は、五月二十日(土)に総会を行いました。昨年度の活動報告および決算報告、今年度の活動計画および予算を報告した後、総会に参加した二十歳と六十歳の会員の方々に、記念品が贈呈されました。

高一　山の教室

高校一年生は、五月二十四日(水)～五月二十六日(金)の二泊三日、長野・志賀高原での「山の教室」に参加しました。初日はホワイトリングにてスポーツ大会を実施し、クラス対抗で四種目にわたり熱戦が繰り広げられました。またその夜には、里見校長先生の講話を聞いて建学の精神を学び、心身ともに刺激を受けました。

二日目は志賀高原ならではの様々な体験学習やアクティブラーニングなど、通常の学校生活ではなかなか経験出来ない、人生を豊かに生きるためのプログラムを行いました。午後は小布施のグループ散策で長野の文化に触れ、北斎館では日本の芸術文化の歴史にも触れて、有意義な時間を過ごすことができました。

最終日の善光寺では、お戒壇巡りの体験や、宿坊での精進料理など貴重な体験を通して、心を清め、気持ちも新たに、たくさんの楽しい思い出を持って長野を後にしました。

高三　鎌倉研修

四月十四日(金)、高校三年生は「高三鎌倉研修」に出かけてきました。当日は朝早くから新江ノ島水族館に集合し、しばし館内を見学。中でも、ほのかな光を放つクラゲたちが大人気で、生徒たちの心を随分と癒してくれたようです。

その後は、満を持して班別自由行動を開始。事前に示された「九つの推奨ルート」を元に、事前に行動計画を練ってもらっていました。午前は高徳院大仏や極楽寺などの神社仏閣、江の島や由比ガ浜などの観光名所を見て回り、午後は鎌倉駅に程近い鶴岡八幡宮や若宮大路、小町通り周辺などで、おいしい食事やスイーツなどに舌鼓を打ちました。

最後にして最大のイベントは、鎌倉―大宮間の貸し切り列車の旅でしょう。このコロナ禍にあって、「騒いではいけないよ！」と言われ続けた高校時代でしたが、「程々に騒いでも大丈夫だよ！」と言われた時の満面の笑みは、写真に撮っておきたかったぐらいです。気の置けない友人らと楽しく過ごした鎌倉研修…。美しい風景だけにとどまらず、見えない何かをも感じ取り、学び取ることができたのなら、これ幸いです。

高一 インターナショナルプログラム報告

高校一年生(現 高校二年生)合計三十八名が、アメリカ、カナダ、ニュージーランドに一月中旬より四月二日(日)まで、インターナショナルプログラムに参加しました。アメリカ・シアトルとニュージーランドでは現地校に、カナダとアメリカ・サンディエゴでは語学学校に通い、英語力の向上に努めました。

空港に見送りに行ったときには、英語でのコミュニケーションに不安を抱えていましたが、ホストファミリーに学校での出来事を語り、様々な国からの留学生と授業で会話するうちに、英語力も向上して現地での生活を満喫できたようです。ホストファミリーと教会に行ったり、カーリングなどのスポーツを楽しんだり、家族の一員として充実した日々を送りました。

授業では、紛争を経験した話を聞いたり、様々な国籍の生徒の異なる意見を聞き、今までとは異なる立場で物事をみるようになった生徒もいました。文化の違いにとまどうこともありましたが、自分の思いを伝え、相手の言い分にも耳を傾けることで困難も乗り越えていったようです。異なる意見に耳を傾け、自分の考えをきちんと伝えることの大切に気づいた研修でした。この経験をこれからの学校生活にも活かして欲しいと思います。

カンボジア視察

本校では二〇〇八年十月の訪問からJHP学校をつくる会への支援を継続してきました。高二の修学旅行で利用したデルタ航空のマイレージを寄付し、会のスタッフがカンボジアを往復する際の航空チケットにしたり、文化祭による募金等を寄付し、学校建設や施設維持のための費用に充てて頂く活動です。その後十年、十二年、十四年、十六年、十八年と二年毎に視察訪問を重ねてきました。残念ながら二十年は、コロナ禍の影響で中止となり、今回は五年振りの渡航です。

三月二十六日(日)の深夜便で羽田を出発、タイ(バンコク)経由でプノンペンに入り、三十日(木)の早朝に帰国、機内二泊現地二泊のタイトな日程でしたが、現地の天候(この時期は乾季で晴天、但し日中は三十五度前後と暑さは厳しい…)にも恵まれ予定通りに視察を終えることができました。

メンバーは生徒会役員から二名、文実から二名の生徒と、引率教員一名と添乗員一名の計六名で、現地ガイドさんやドライバーさんのサポートを受けながらの旅路です。

現地JHPの事務所で活動内容や課題等のレクチャーを受け、チッダイの学校(当初は一泊二日の行程、今回は片道四時間の日帰りドライブです)や市内のCCH幸せのこどもの家(孤児の生活支援から教育をサポートする施設)を訪問し、あらためて支援の必要性を感じた次第です。生徒の使用する机や椅子の老朽化は酷いもので、環境改善が急務の状況です。カンボジアの不幸な歴史を背景に復興著しい都会の喧騒とは別に、田舎は開発途上のままでいます。

これからも淑徳の支援により教育の充実がはかられていくことを願っております。どうか皆様のご支援を宜しくお願い致します。

高一 イギリス研修旅行

三月二十二日(水)～四月二日(日)の日程で、高校一年生五十名が英国語学研修に参加しました。初めての海外渡航という生徒も多く、早朝の集合でしたが、初日から期待感が表情に溢れていました。飛行機とバスを乗り継いで、研修地のモーヴァンに到着したのは夜八時。温かい歓迎を受けて疲れも忘れ、それぞれのホームステイ先へ向かっていきました。

二日目は朝からそれぞれのホストファミリーの話でもちきりでしたが、いよいよ英語のレッスンがスタート。今年は四班に分かれて英語のレッスンを行いながら、有名なラグビー校のグループ校である、名門コッツウォルド・スクールを訪問し、日本の文化を紹介したり、スクールの授業に参加したりと、現地の学生たちと交流を深めました。

毎日の英語のレッスンと並行して、研修地であり豊かな自然と水の街であるモーヴァン、ハリー・ポッターのロケ地でもあるグロスター大聖堂、風呂(bath)の語源にもなったローマ時代の浴場遺跡で有名なバース、シェイクスピアの生家のあるストラットフォード、大学で有名なオックスフォードなどを訪れ知見を広めました。

最終日はロンドンへ。短い期間でしたがファミリーとの関係も深まり、別れの際にはあちこちで涙を流し再訪を誓う様子が見られました。ロンドンではバッキンガム宮殿や大英博物館を見学し、翌朝日本へと飛び立ちました。

この旅を通じて、単に英語を学ぶだけでなく、異なる価値観に直接触れるという貴重な体験をできたと思います。生徒たちをさらに成長させる原動力となってくれるでしょう。

中三 イギリス研修旅行

三月二十一日(火)～四月一日(土)の日程で、中学三年生六十二名が英国語学研修に参加しました。コロナ禍で中止となっていたため、三年ぶりの開催です。午前中は五グループに分かれて英語のレッスンを受けました。その一環としてスコーン作り、ドラマ授業の体験、現地の小学生や高校生との交流など、イギリスの文化に触れることができました。滞在先となるチェルトナムやグロスター大聖堂、コッツウォルズの村、ロンドンなどを観光した生徒たちは、目を輝かせていました。週末はホストファミリーと楽しく過ごし、かけがえのない思い出を作ったようです。このかけがえのない経験を活かし、視野の広がった生徒たちのこれからの人生が豊かになることを願います。

人事

就任
(二〇二三年四月一日付)

- 池原未希子先生〔社会科〕
- 河合　春佳先生〔社会科〕
- 村上　智子先生〔国語科〕
- 村上　未祐先生〔理科〕

退職
(二〇二三年三月三十一日付)

- 板垣　知子先生〔国語科〕
- 太田　守人先生〔社会科〕
- スター・ピーター・トーマス先生〔英語科〕

※板垣先生は本年度より講師として勤務されています。